

科目名		摂食・嚥下障害Ⅱ		授業の種類	講義	講師名		
授業回数	15回	時間数	30時間 (1単位)	配当学年・時期	言語聴覚士科3年		必修・選択	必修
〔授業の目的・ねらい〕								
多様な原因で発症する摂食嚥下障害の診断、評価、訓練法を取得する								
〔授業全体の内容の概要〕								
1.摂食嚥下障害の原因について概説する								
2.摂食嚥下障害の臨床像について概説する								
3.摂食嚥下障害の評価法について概説する								
4.摂食嚥下障害の治療・訓練法について概説する								
〔講師の実務経験〕								
〔授業終了時の達成課題（到達目標）〕								
1.対象者の病態・様態に関わらず摂食嚥下障害を評価できる								
2.摂食嚥下障害に対する治療法・リハビリテーションに習熟する								
3.関連する他職種との連携ができる								
回数	講義内容							
1	摂食嚥下に関する解剖、神経、機能、発達							
2	摂食嚥下障害の病態（成人：脳血管疾患）							
3	摂食嚥下障害の病態（成人：神経筋疾患）							
4	摂食嚥下障害の病態（成人：その他の疾患、高齢者）							
5	摂食嚥下障害の病態（小児）、外科的治療							
6	摂食嚥下障害に対する評価（口腔器官評価、反復唾液嚥下テスト、改訂水飲み検査）							
7	摂食嚥下障害に対する評価（口腔器官評価、反復唾液嚥下テスト、改訂水飲み検査等の演習を中心に） 準備物：コップ、水、スプーン							
8	摂食嚥下障害に対する評価（嚥下内視鏡検査、嚥下造影検査等）							
9	摂食嚥下障害に対する間接訓練							
10	摂食嚥下障害に対する直接訓練とリスク管理（カニューレへの対応を含む）							
11	摂食嚥下障害に対する食事介助と栄養管理（患者、患者家族、関連職種への指導を中心に） 準備物：コップ、水、とろみ剤							
12	摂食嚥下障害に関連する他職種との連携							
13	摂食嚥下障害の外科的治療							
14	摂食嚥下障害に対する事例検討（臨床像をまとめる演習を中心に）							
15	摂食嚥下障害に対する事例検討（患者、患者家族、関連職種連携の演習を中心に）							
【 準備学習・時間外学習 】								
事前に摂食・嚥下障害Ⅰの復習								
【 使用テキスト 】								
書籍名				著者名		出版社		
なし・配布プリント								
【 単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など） 】								
試験の結果を100点満点として成績を評価する。試験は定期試験のみ実施とし、60点以上の場合に科目を認定する。								